

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) **公開特許公報(A)**

(11) 特許出願公開番号

特開2004-189237

(P2004-189237A)

(43) 公開日 平成16年7月8日(2004.7.8)

(51) Int.Cl.⁷

B65D 5/42

B 6 5 D 83/06

F I

B 6 5 D 5/42

B 6 5 D 83/06

テーマコード (参考)

3E060

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 12 頁)

(21) 出願番号 特願2002-355678 (P2002-355678)

(22) 出願日 平成14年12月6日 (2002. 12. 6)

(71) 出願人 000000918
花王株式会社
東京都中央区日本橋茅場町1丁目14番1
〇号

(74) 代理人 100081385
弁理士 塩川 修治

(72) 発明者 鳥居 久訓
東京都墨田区文花2-1-3 花王株式会
社研究所内

(72) 発明者 飯塚 宣夫
東京都墨田区文花2-1-3 花王株式会
社研究所内

(72) 発明者 藤田 実智昭
東京都墨田区文花2-1-3 花王株式会
社研究所内

[最終頁に続く](#)

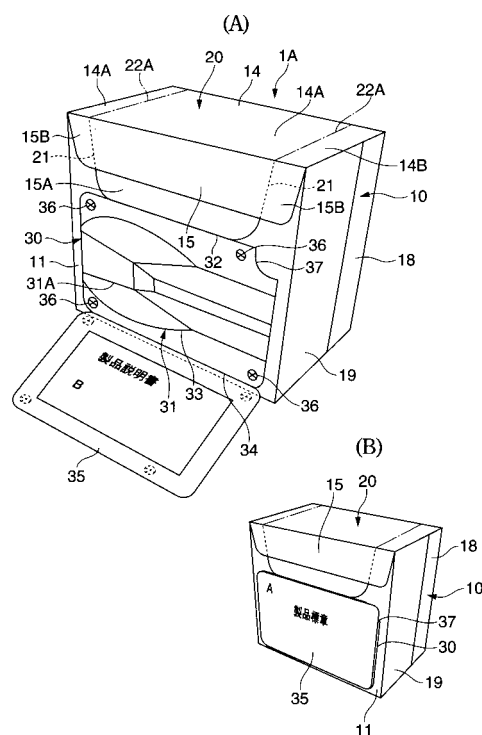
(54) 【発明の名称】 容器

(57) 【要約】

【課題】内容物取り扱い構成部を備える容器において、組立性を向上し、コスト低減するとともに、内容物取り扱い構成部の汚れや破損を防止し、容器本体の外観デザイン性を向上すること。

【解決手段】開口を有する箱体１０と、該箱体１０の開口に被着される蓋２０を容器材料に一体化し、且つ、該容器材料の箱体構成部に接続する延長板３０（延長部）にスプーン取り扱い構成部３１（内容物取り扱い構成部）と、これに切り込み及び／又は折り線を介して接続して該スプーン取り扱い構成部３１を被覆する被覆板３５（被覆部）とを有するようにした容器１Ａである。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

開口を有する箱体と、該箱体の開口に被着される蓋を容器材料に一体化し、且つ、該容器材料の箱体構成部に接続する延長部に内容物取り扱い構成部と、これに切り込み及び／又は折り線を介して接続して該内容物取り扱い構成部を被覆する被覆部とを有するようにした容器。

【請求項 2】

前記内容物取り扱い構成部を設けた前記延長部が、蓋、側板もしくは底板の何れか一つに接続した請求項 1 記載の容器。

【請求項 3】

前記容器材料が板紙からなり、前記内容物取り扱い構成部が該板紙に設けられている切断誘導線に沿って分離可能にされ、且つ、該内容物取り扱い構成部に設けられている折り線に沿って該内容物取り扱い構成部を折り上げ可能にする請求項 1 又は 2 記載の容器。

【請求項 4】

前記内容物取り扱い構成部がスプーンである請求項 1 ～ 3 のいずれかに記載の容器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は粉末洗剤等を収容する容器に関する。

【0002】

【従来の技術】

容器として、開口を有する箱体と、該箱体の開口に封着される封止材を、単一の容器材料に一体化し、該封止材にスプーン構成部を設けたものがある（特許文献 1）。

【0003】

また、計量カップ付容器として、ボール紙又は類似の材料からなる平板状の原板に切り込み及び折れ線等を形成して本体部を構成し、この本体部の側縁にミシン目で切り取り可能でかつ切り取り後に組み立てて三角柱の計量カップ部を構成し、本体部を組み立てて容器本体を形成後に内容物取出口を含む容器本体の角部にカップ部を組立てた計量カップを嵌合できるように構成したものがある（特許文献 2）。

【0004】

【特許文献 1】

特開平 10-297665（3 頁、図 4）

【0005】

【特許文献 2】

実開平 3-4584（1 頁、第 1 図、第 5 図）

【0006】

【発明が解決しようとする課題】

特許文献 1 では、箱体の開口に被着される蓋を、該箱体と別体にしており、容器の全体の組立が複雑になり、コスト高になる。

【0007】

特許文献 2 では、計量カップ部が容器本体部の外側に露出して設けられるため、容器の流通時に計量カップ部が汚れたり、破損するおそれがあるし、計量カップ部が容器本体の表面を覆って外観デザイン性を損なう。

【0008】

本発明の課題は、内容物取り扱い構成部を備える容器において、組立性を向上し、コスト低減するとともに、内容物取り扱い構成部の汚れや破損を防止し、容器本体の外観デザイン性を向上することにある。

【0009】

【課題を解決するための手段】

請求項 1 の発明は、開口を有する箱体と、該箱体の開口に被着される蓋を容器材料に一体

10

20

30

40

50

化し、且つ、該容器材料の箱体構成部に接続する延長部に内容物取り扱い構成部と、これに切り込み及び／又は折り線を介して接続して該内容物取り扱い構成部を被覆する被覆部とを有するようにした容器である。

【0010】

【発明の実施の形態】

(第1実施形態) (図1～図3)

容器1Aは、図1～図3に示す如く、開口10Aを有する箱体10と、箱体10の開口10Aに被着される蓋20を、単一の容器材料に一体化し、蓋20の張出フラップ15(蓋構成部)に接続する延長板30(延長部)にスプーン構成部31(内容物取り扱い構成部)と、これに切り込み及び／又は折り線を介して接続して該スプーン構成部31を被覆する被覆板35(被覆部)とを有し、粉末洗剤等を内容物として収容可能とするものである。容器1Aは、箱体10と蓋20が単一の容器材料によって構成されていて密封でき、封止材を必要としない。

【0011】

容器材料としては、板紙だけ、又は板紙を主材料としてポリエチレン等のプラスチックフィルムをラミネートした素材を採用できる。

【0012】

箱体10は、図3に示す如く、正面板11、底板12、背面板13、蓋板14、張出フラップ15を折り罫線を介して互いに接続し、底板12と蓋板14のそれぞれの両端辺に折り罫線を介して糊付フラップ16、17を接続し、背面板13の両端辺に折り罫線を介して内側板18を接続し、正面板11の両端辺に折り罫線を介して外側板19を接続している。

【0013】

箱体10は、正面板11、底板12、背面板13、蓋板14を胴巻き状に折り曲げ、蓋板14に接続してある張出フラップ15を折り曲げてこの張出フラップ15を正面板11の上端辺寄りでその表面に糊付けする。更に、底板12と蓋板14に接続してある糊付フラップ16、17を折り曲げ、背面板13に接続してある内側板18を折り曲げてこの内側板18を糊付フラップ16、17の表面に糊付けし、正面板11に接続してある外側板19を折り曲げてこの外側板19を糊付フラップ16、17の表面と内側板18の表面に糊付けすることにて、封止状態を形成する。

【0014】

尚、箱体10への内容物の装填は、正面板11、底板12、背面板13、蓋板14の両端辺のうちの一方の端辺の側で糊付フラップ16、17、内側板18、外側板19を上述の如くに互いに糊付けした後、それらの他方の端辺の側で糊付フラップ16、17、内側板18、外側板19を同じく互いに糊付けする前に行なう。

【0015】

箱体10は、蓋板14の両側小幅部14Bに挟まれる部分を蓋片14Aとし、蓋板14が接続している背面板13の上端片寄りの一部にそれらの蓋片14A、両側小幅部14Bのそれぞれに連続する蓋片13A、両側小幅部13Bを形成する。また、蓋板14に接続している張出フラップ15には、それらの蓋片14A、両側小幅部14Bのそれぞれに連続する突片15A、両側小幅部15Bが形成される。蓋片13A、14Aと突片15Aが前述した蓋20を形成する。箱体10は、張出フラップ15の両側小幅部15Bを前述した正面板11の上端片寄りの表面に前面糊付けし、突片15Aを正面板11の上端片寄りの表面に引き剥がし容易に貼り付ける。

【0016】

箱体10は、張出フラップ15において、突片15Aとその両側の小幅部15Bとの間に、ミシン目等の引裂き誘導線21を設けてある。

【0017】

また、蓋板14では、蓋片14Aとその両側の小幅部14Bとの間に、表裏2本の互いに平行をなすように離隔された半切線22A、22Bを設け、半切線22Aは蓋板14の表

10

20

30

40

50

面の表面層に、突片 1 5 A の引裂き誘導線 2 1 につながるように設けられ、半切線 2 2 B は蓋板 1 4 の裏面の表面層に、半切線 2 2 A より蓋片 1 4 A の内側に位置付けられて設けられる。蓋片 1 4 A を両側小幅部 1 4 B から引裂いたとき、半切線 2 2 A と半切線 2 2 B の間の表面の側の表面層が蓋片 1 4 A の側に残って封止部 1 6 A となり、半切線 2 2 A と半切線 2 2 B の間の裏面の側の表面層が両側小幅部 1 4 B の側に残って封止部 1 6 A が着座するための着座部 1 6 B になる。

【0018】

また、背面板 1 3 では、蓋片 1 3 A とその両側の小幅部 1 3 B との間に、表裏 2 本の互いに平行をなすように離隔された半切線 2 3 A、2 3 B を設け、半切線 2 3 A は背面板 1 3 の表面の表面層に、蓋片 1 4 A の半切線 2 2 A につながるように設けられ、半切線 2 3 B は背面板 1 3 の裏面の表面層に、半切線 2 3 A より蓋片 1 3 A の内側に位置付けられて設けられる。背面板 1 3 において、両側の半切線 2 3 A、2 3 B が設けられている端部に挟まれる部分には、ヒンジ野線 2 4 が設けられる。蓋片 1 3 A を両側小幅部 1 3 B から引裂いたとき、半切線 2 3 A と半切線 2 3 B の間の表面の側の表面層が蓋片 1 3 A の側に残って封止部 1 7 A となり、半切線 2 3 A と半切線 2 3 B の間の裏面の側の表面層が両側小幅部 1 3 B の側に残って封止部 1 7 A が着座するための着座部 1 7 B（不図示）になる。

10

【0019】

しかるに、箱体 1 0 は、張出フラップ 1 5 の先端辺にミシン目等の引裂き誘導線 3 2 を介して、延長板 3 0 を接続し、延長板 3 0 にスプーン構成部 3 1 を備える。延長板 3 0 は正面板 1 1 の表面に点状に糊付けされ、容易に剥離可能な状態で正面板 1 1 に添設される。

20

【0020】

スプーン構成部 3 1 は、延長板 3 0 に設けられている貫通切込み線又は半切り線の切断誘導線 3 3 に沿って分離可能にされ、スプーン構成部 3 1 自体に設けられている折線 3 1 A に沿ってスプーン（不図示）を折り上げ形成可能とする。

【0021】

更に、箱体 1 0 は、延長板 3 0（スプーン構成部 3 1）の外縁に切り込み又は折り線 3 4 を介して、スプーン構成部 3 1 を被覆する被覆板 3 5（被覆部）を備える。被覆板 3 5 は延長板 3 0 の表面の 4 つのコーナー部に付した糊 3 6 により延長板 3 0 に剥離容易な状態で添設される。このとき、延長板 3 0 の被覆板 3 5 から遠い側のコーナー部に切欠き 3 7 を設けておけば、この切欠き 3 7 に指先を差し入れて被覆板 3 5 を剥離容易にできる。

30

【0022】

被覆板 3 5 の表面には製品標章「A」等を記載し、裏面には製品説明書「B」等を記載できる。

【0023】

容器 1 A は以下の如くに使用される。

（１）被覆板 3 5 を延長板 3 0（スプーン構成部 3 1）の表面から剥離し、この被覆板 3 5 を折り線 3 4 まわりに展開する。被覆板 3 5 の裏面に記載の製品説明書の説明に従い、延長板 3 0 を正面板 1 1 の表面から剥離するとともに、引裂き誘導線 3 2 に沿って張出フラップ 1 5 から切離する。図 2 は延長板 3 0 が切離された箱体 1 0 及び蓋 2 0 を示す。

【0024】

（２）延長板 3 0 から切断誘導線 3 3 に沿ってスプーン構成部 3 1 を分離し、スプーン構成部 3 1 の折り線 3 1 A を折り込んでスプーン（不図示）を折り上げる。

40

【0025】

（３）突片 1 5 A に開き操作力を加えてこれを引裂き誘導線 2 1 に沿って両側小幅部 1 5 B から引裂いて引き上げる。突片 1 5 A は正面板 1 1 から引き剥がされる。

【0026】

（４）突片 1 5 A に連なる蓋片 1 4 A が半切線 2 2 A、2 2 B に沿って両側小幅部 1 4 B から層間剥離され、更に蓋片 1 3 A が半切線 2 3 A、2 3 B に沿って両側小幅部 1 3 B から層間剥離される。これにより、蓋 2 0（蓋片 1 3 A 及び蓋片 1 4 A）が開かれ、箱体 1 0 に開口 1 0 A が形成される。

50

【0027】

(5) 前述(2)のスプーンを用いて箱体10の洗剤を計量し小出しする。

(6) スプーンを箱体10に入れ、蓋20により箱体10を再封止し、再使用に備える。

【0028】

蓋20の一部が蓋片13Aにより背面板13の内部にまで延在するから、開口10Aを拡張し、箱体10の内部へのスプーンの挿入等が容易になる。

【0029】

蓋20による開口10Aの再封止時には、突片15Aを開口10A内である正面板11の裏面に上端辺よりで差し込むと、蓋片13A、14Aの前述した封止部16A、17Aが、両側小幅部13B、14Bの側の着座部16B、17Bに着座し、紙容器1の密封性を高める。 10

【0030】

蓋20の再開封時には、正面板11の上端中央部が三日月形に切り欠いているため、蓋20の蓋片14Aと突片15Aが接続される折り罫線部に指をかけることが可能となり、開封が容易になる。

【0031】

本実施形態によれば以下の作用がある。

▲1▼箱体10と蓋20を単一の容器材料に一体化し、かつ該容器材料にスプーン構成部31も設けた。従って、単一の容器材料により、箱体10だけでなく、蓋20もスプーン構成部31も一体で一挙に組上げることができ、封止材等を格別に設ける必要もなく、組立性も向上し、コスト低減できる。 20

【0032】

▲2▼容器材料を板紙とした。そして、板紙の切断誘導線33に沿ってスプーン構成部31を分離し、スプーン構成部31に設けた折り線31Aに沿ってスプーンを組上げ可能とするものであり、スプーンを簡易に組立てできる。また、容器材料を板紙としたから、廃棄段階で容易に破ったり丸める等によって廃棄容積を小さくし、焼却性も良く、或いは再生紙としての再利用性も向上できる。

【0033】

▲3▼スプーン構成部31を被覆する被覆板35を容器材料に一体化したから、容器1Aの流通時におけるスプーン構成部31の損傷、汚損を防止できる。また、被覆板35の表面には製品標章等を記載したり、裏面には製品説明書等を記載することにより、使用者の利便性を高め、かつ容器1Aの外観デザイン性を向上できる。 30

【0034】

(第2実施形態)(図4、図5)

容器1Bは、図4、図5に示す如く、開口40A(不図示)を有する箱体40と、箱体40の開口40Aに被着される蓋50を、単一の容器材料に一体化し、箱体40の側板42(箱体構成部)に糊付フラップ41を介して接続する延長板60(延長部)にスプーン構成部61(内容物取り扱い構成部)と、これに切り込み及び／又は折り線を介して接続して該スプーン構成部61を被覆する被覆板65(被覆部)とを有し、粉末洗剤等を内容物として収容可能とするものである。容器1Bは、箱体40と蓋50が単一の容器材料によって構成されていて密封でき、封止材を必要としない。 40

【0035】

容器材料としては、板紙だけ、又は板紙を主材料としてポリエチレン等のプラスチックフィルムをラミネートした素材を採用できる。

【0036】

箱体40は、図5に示す如く、糊付フラップ41、側板42、正面板43、側板44、背面板45、インナースリーブ板46～48を折り罫線を介して互いに接続している。側板42、正面板43、側板44、背面板45の上下辺にはそれぞれ、天板42A、43A、44A、45Aと底板42B、43B、44B、45Bが接続されている。

【0037】

箱体 40 において、側板 42、正面板 43、側板 44、背面板 45、インナースリーブ板 46～48 の裏面にはそれらの接続方向にカットテープ 49 が予め貼り込まれている。切り込み 49A から切れ線 49B まで、カットテープ 49 の一端をつまんで表面側に引張ると、正面板 43 と側板 42、44 がそれらの上部において 2 つに切り裂かれる。背面板 45 のカットテープ 49 のレベルにはヒンジ 45C として機能する折り罫線が施される。

【0038】

容器 1B にあっては、側板 42、正面板 43、側板 44 のそれぞれの裏面側にインナースリーブ板 46～48 を重ね合わせた 2 重壁となるように側板 42、正面板 43、側板 44、背面板 45、インナースリーブ 46～48 を巻き折りし、糊付フラップ 41 を背面板 45 の表面に外貼りする。次に、底板 42B～45B を折り込んで互いに糊付し、内容物を充填後、天板 42A～45A を折り込んで互いに接着する。 10

【0039】

しかるに、箱体 40 は、側板 42 の糊付フラップ 41 にミシン目等の引裂き誘導線 62 を介して、延長板 60 を接続し、延長板 60 にスプーン構成部 61 を備える。延長板 60 は、背面板 45 の表面に点状に糊付けされ、容易に剥離可能な状態で背面板 45 に添設される。

【0040】

スプーン構成部 61 は、延長板 60 に設けられている貫通切り込み線又は半切り線の切断誘導線 63 に沿って分離され、スプーン構成部 61 自体に設けられている折線 61A に沿ってスプーン（不図示）を折り上げ形成可能とする。 20

【0041】

更に、箱体 40 は、延長板 60（スプーン構成部 61）の外縁に切り込み又は折り線 64 を介して、スプーン構成部 61 を被覆する被覆板 65（被覆部）を備える。被覆板 65 は延長板 60 の表面の 4 つのコーナー部に付した糊 66 により延長板 60 に剥離容易な状態で添設される。このとき、延長板 60 の被覆板 65 から遠い側のコーナー部に切欠き 67 を設けておけば、この切欠き 67 に指先を差し入れて被覆板 65 を剥離容易にできる。

【0042】

被覆板 65 の表面には製品標章「A」等を記載し、裏面には製品説明書「B」等を記載できる。

【0043】

容器 1B は以下の如くに使用される。 30

（１）被覆板 65 を延長板 60（スプーン構成部 61）の表面から剥離し、この被覆板 65 を折り線 64 まわりに展開する。被覆板 65 の裏面に記載の製品説明書の説明に従い、延長板 60 を背面板 45 の表面から剥離するとともに、引裂き誘導線 62 に沿って糊付フラップ 41 から切離する。

【0044】

（２）延長板 60 から切断誘導線 63 に沿ってスプーン構成部 61 を分離し、スプーン構成部 61 の折り線 61A を折り込んでスプーン（不図示）を折り上げる。

【0045】

（３）カットテープ 49 を切り込み 49A から切れ線 49B まで引っ張り、正面板 43 と側板 42、44 の上部を切り裂く。これにより、箱体 40 に開口 40A が形成され、天板 42A～45A 並びに正面板 43、背面板 45 及び側板 42、44 の上部が蓋 50 になり、蓋 50 はヒンジ 45C まわりに回動して開口 40A を開通可能にする。 40

【0046】

（４）前述（２）のスプーンを用いて箱体 40 の洗剤を計量し小出しする。

（５）スプーンを箱体 40 に入れ、蓋 50 により箱体 40 を再封止し、再使用に備える。

【0047】

本実施形態によれば以下の作用がある。

▲ 1 ▼ 箱体 40 と蓋 50 を単一の容器材料に一体化し、かつ該容器材料にスプーン構成部 61 も設けた。従って、単一の容器材料により、箱体 40 だけでなく、蓋 50 もスプーン 50

構成部 6 1 も一体で一挙に組上げることができ、封止材等を格別に設ける必要もなく、組立性も向上し、コスト低減できる。

【0048】

▲2▼容器材料を板紙とした。そして、板紙の切断誘導線 6 3 に沿ってスプーン構成部 6 1 を分離し、スプーン構成部 6 1 に設けた折り線 6 1 A に沿ってスプーンを組上げ可能とするものであり、スプーンを簡易に組立てできる。また、容器材料を板紙としたから、廃棄段階で容易に破ったり丸める等によって廃棄容積を小さくし、焼却性も良く、或いは再生紙としての再利用性も向上できる。

【0049】

▲3▼スプーン構成部 6 1 を被覆する被覆板 6 5 を容器材料に一体化したから、容器 1 B の流通時におけるスプーン構成部 6 1 の損傷、汚損を防止できる。また、被覆板 6 5 の表面には製品標章等を記載したり、裏面には製品説明書等を記載することにより、使用者の利便性を高め、かつ容器 1 B の外観デザイン性を向上できる。

【0050】

(第3実施形態) (図6、図7)

容器 1 C は、図 6、図 7 に示す如く、開口 7 0 A (不図示) を有する箱体 7 0 と、箱体 7 0 の開口 7 0 A に被着される蓋 8 0 を、単一の容器材料に一体化し、箱体 7 0 の背面板 7 5 (箱体構成部) に糊付フラップ 7 6 を介して接続する延長板 9 0 (延長部) にスプーン構成部 9 1 (内容物取り扱い構成部) と、これに切り込み及び／又は折り線を介して接続して該スプーン構成部 9 1 を被覆する被覆板 9 5 (被覆部) とを有し、粉末洗剤等を内容物として収容可能とするものである。容器 1 C は、箱体 7 0 と蓋 8 0 が単一の容器材料によって構成されていて密封でき、封止材を必要としない。

【0051】

容器材料としては、板紙だけ、又は板紙を主材料としてポリエチレン等のプラスチックフィルムをラミネートした素材を採用できる。

【0052】

箱体 7 0 は、図 7 に示す如く、糊付フラップ 7 1、側板 7 2、正面板 7 3、側板 7 4、背面板 7 5、糊付フラップ 7 6 を折り罫線を介して互いに接続している。側板 7 2、正面板 7 3、側板 7 4、背面板 7 5 の上下辺にはそれぞれ、天板 7 2 A、7 3 A、7 4 A、7 5 A と底板 7 2 B、7 3 B、7 4 B、7 5 B が接続されている。

【0053】

箱体 7 0 において、糊付フラップ 7 1、側板 7 2、正面板 7 3、側板 7 4、背面板 7 5 の裏面にはそれらの接続方向にカットテープ 7 9 が予め貼り込まれている。切り込み 7 9 A から切れ線 7 9 B まで、カットテープ 7 9 の一端をつまんで表面側に引張ると、正面板 7 3 と側板 7 2、7 4 がそれらの上部において 2 つに切り裂かれる。背面板 7 5 のカットテープ 7 9 のレベルにはヒンジ 7 5 C として機能する折り罫線が施される。

【0054】

容器 1 C にあっては、側板 7 2、正面板 7 3、側板 7 4、背面板 7 5 を巻き折りし、糊付フラップ 7 1 を背面板 7 5 の裏面に内貼りし、糊付フラップ 7 6 を側板 7 2 の表面に外貼りする。次に、底板 7 2 B ~ 7 5 B を折り込んで互いに糊付けし、内容物を充填後、天板 7 2 A ~ 7 5 A を折り込んで互いに接着する。

【0055】

しかるに、箱体 7 0 は、背面板 7 5 の糊付フラップ 7 6 にミシン目等の引裂き誘導線 9 2 を介して、延長板 9 0 を接続し、延長板 9 0 にスプーン構成部 9 1 を備える。延長板 9 0 は、側板 7 2 の表面に点状に糊付され、容易に剥離可能な状態で側板 7 2 に添設される。

【0056】

スプーン構成部 9 1 は、延長板 9 0 に設けられている貫通切り込み線又は半切り線の切断誘導線 9 3 に沿って分離され、スプーン構成部 9 1 自体に設けられている折り線 9 1 A に沿ってスプーン (不図示) を折り曲げ形成可能とする。

【0057】

更に、箱体 70 は、延長板 90（スプーン構成部 91）の外縁に切り込み又は折り線 94 を介して、スプーン構成部 91 を被覆する被覆板 95（被覆部）を備える。被覆板 95 は延長板 90 の表面の 4 つのコーナー部に付した糊 96 により延長板 90 に剥離容易な状態で添設される。このとき、延長板 90 の被覆板 95 から遠い側のコーナー部に切欠き 97 を設けておけば、この切欠き 97 に指先を差し入れて被覆板 95 を剥離容易にできる。

【0058】

被覆板 35 の表面には製品標章「A」等を記載し、裏面には製品説明書「B」等を記載できる。

【0059】

容器 1C は以下の如くに使用される。

10

（１）被覆板 95 を延長板 90（スプーン構成部 91）の表面から剥離し、この被覆板 95 を折り線 94 まわりに展開する。被覆板 95 の裏面に記載の製品説明書の説明に従い、延長板 90 を側板 72 の表面から剥離するとともに、引裂き誘導線 92 に沿って糊付フラップ 76 から切離する。

【0060】

（２）延長板 90 から切断誘導線 93 に沿ってスプーン構成部 91 を分離し、スプーン構成部 91 の折り線 91A を折り込んでスプーン（不図示）を折り上げる。

【0061】

（３）カッターテープ 79 を切り込み 79A から切れ線 79B まで引張り、正面板 73 と側板 72、74 の上部を切り裂く。これにより、箱体 70 に開口 70A が形成され、天板 72A～75A 並びに正面板 73、背面板 75 及び側板 72、74 の上部が蓋 80 になり、蓋 80 はヒンジ 75C まわりに回動して開口 70A を開閉可能とする。

20

【0062】

（４）前述（２）のスプーンを用いて箱体 70 の洗剤を計量し小出しする。

（５）スプーンを箱体 70 に入れ、蓋 80 により箱体 70 を再封止し、再使用に備える。

【0063】

本実施形態によれば以下の作用がある。

▲ 1 ▼ 箱体 70 と蓋 80 を単一の容器材料に一体化し、かつ該容器材料にスプーン構成部 91 も設けた。従って、単一の容器材料により、箱体 70 だけでなく、蓋 80 もスプーン構成部 91 も一体で一挙に組上げることができ、封止材等を格別に設ける必要もなく、組立性も向上し、コスト低減できる。

30

【0064】

▲ 2 ▼ 容器材料を板紙とした。そして、板紙の切断誘導線 93 に沿ってスプーン構成部 91 を分離し、スプーン構成部 91 に設けた折り線 91A に沿ってスプーンを折り上げ可能とするものであり、スプーンを簡易に組立てできる。また、容器材料を板紙としたから、廃棄段階で容易に破ったり丸める等によって廃棄容積を小さくし、焼却性も良く、或いは再生紙としての再利用性も向上できる。

【0065】

▲ 3 ▼ スプーン構成部 91 を被覆する被覆板 95 を容器材料に一体化したから、容器 1C の流通時におけるスプーン構成部 91 の損傷、汚損を防止できる。また、被覆板 95 の表面には製品標章等を記載したり、裏面には製品説明書等を記載することにより、使用者の利便性を高め、かつ容器 1C の外観デザイン性を向上できる。

40

【0066】

【発明の効果】

本発明によれば、内容物取り扱い構成部を備える容器において、組立性を向上し、コスト低減するとともに、内容物取り扱い構成部の汚れや破損を防止し、容器本体の外観デザイン性を向上することができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 図 1 は第 1 実施形態の容器を示す斜視図である。

【図 2】 図 2 は容器の開蓋状態を示す斜視図である。

50

【図 3】 図 3 は容器の展開図である。

【図 4】 図 4 は第 2 実施形態の容器を示す斜視図である。

【図 5】 図 5 は容器の展開図である。

【図 6】 図 6 は第 3 実施形態の容器を示す斜視図である。

【図 7】 図 7 は容器の展開図である。

【符号の説明】

1 A、1 B、1 C 容器

10、40、70 箱体

10 A、40 A、70 A 開口

20、50、80 蓋

30、60、90 延長板（延長部）

3 1、6 1、9 1 スプーン構成部（内容物取り扱い構成部）

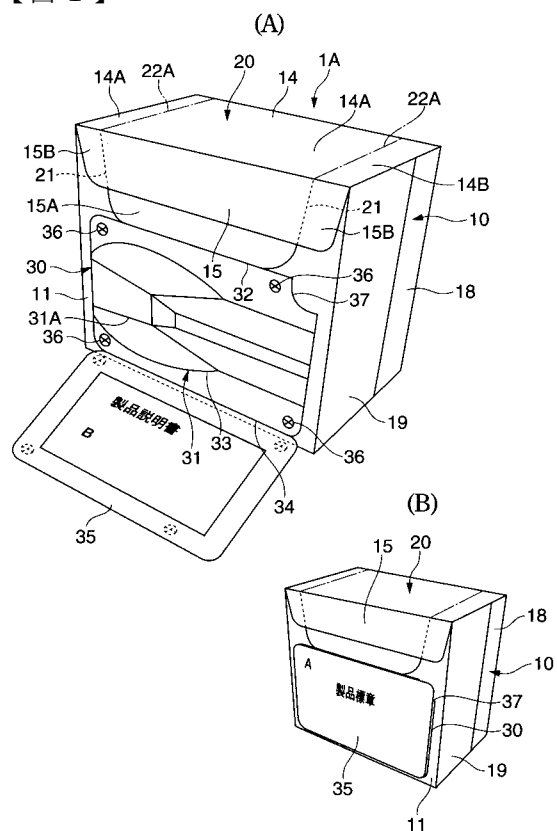
3 1 A、 6 1 A、 9 1 A 折り線

3 3、6 3、9 3 切断誘導線

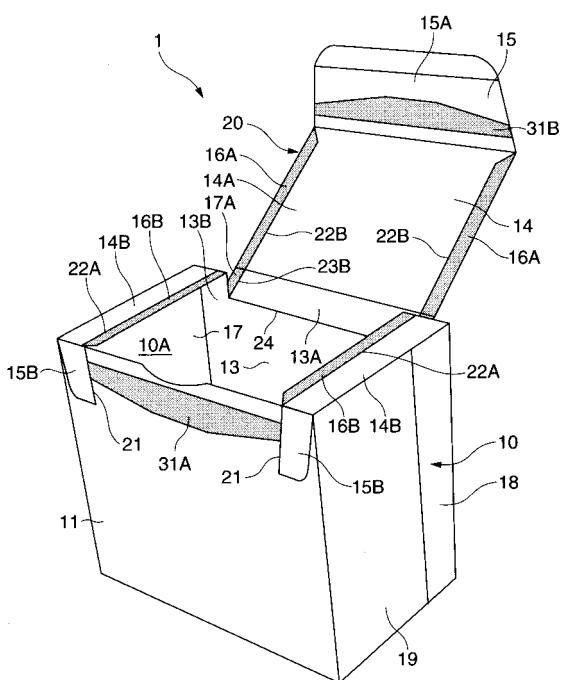
3 5、6 5、9 5 被覆板（被覆部）

10

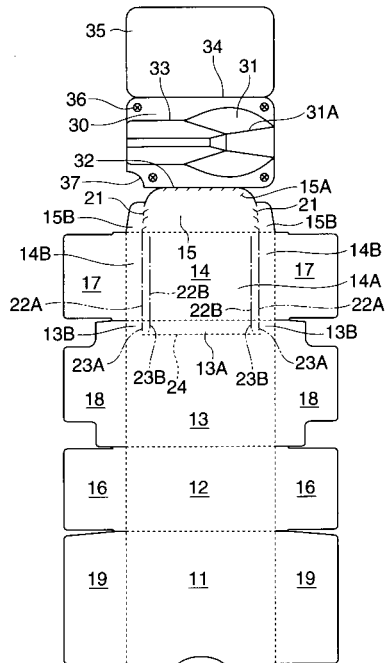
【図 1】



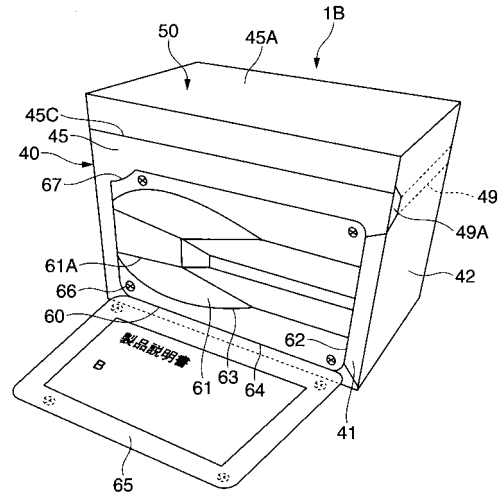
【图 2】



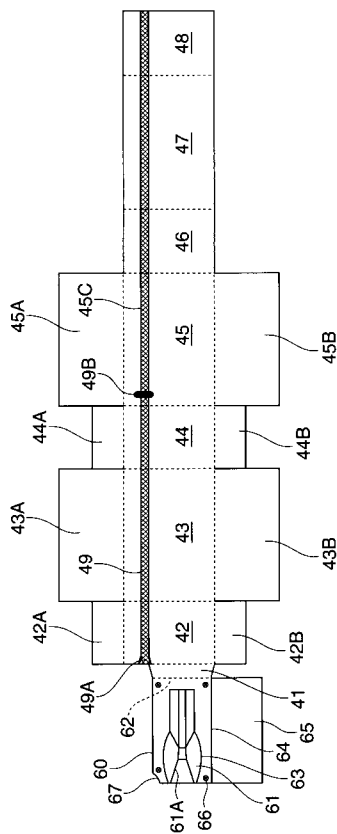
【図 3】



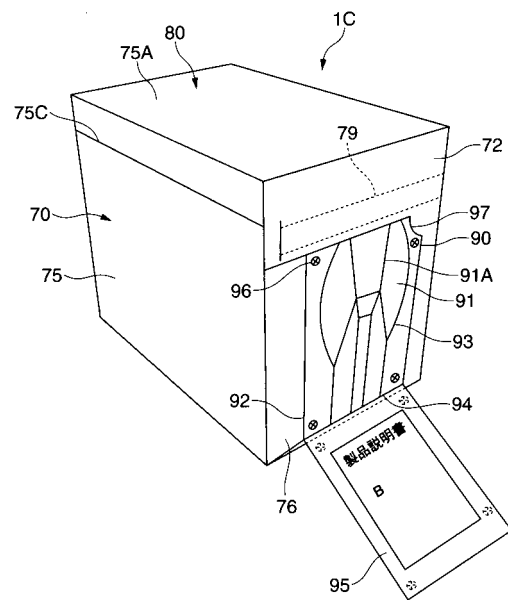
【図 4】



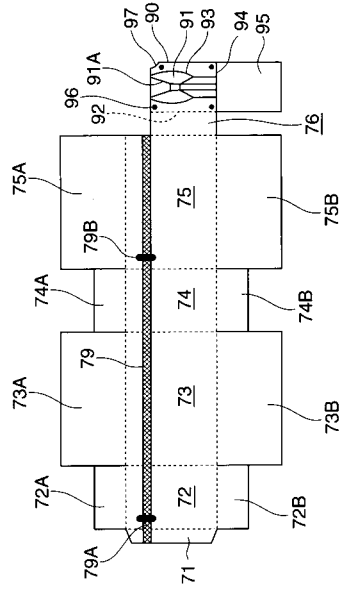
【図 5】



【図 6】



【図 7】



フロントページの続き

Fターム(参考) 3E060 AA03 AB05 BC01 BC04 CE04 CE07 CE13 CE14 CE22 CE28
CF05 DA30 EA04 EA14